

超音波検査士認定試験問題集

第3版

日本超音波医学会編



本書はタイトルのとおり、日本超音波医学会 認定超音波検査士の認定試験受験のための問題集です。

過去に出題された問題を領域ごとにまとめた本部分、実際に受験するための手続き、および、解答・解説編の3部構成となっています。

今回、第3版が出版されましたが、第2版までと大きく異なるところは、“解説”が加えられたこと、および2つの新領域“健診”と“血管”の項が加わったことです。

解答・解説編が別冊となっていますので、問題を解いては解答を見て、正解であっても考え方が正しかったかどうかを確認する、また、どうしてもわからない時にも、どのように考えるとよいか解説を読んで理解することができます。

1年以内に受験予定の方、直前の対策には必須の一冊です。申請書の書き方、検査実績の記載例などが掲載されていて、大変実用的です。また、過去に実際に出題された問題が多く含まれていますので、この問題集で体験しておけば、試験当日にあがってしまうことも少ないと思います。

将来受験をと考えている方、問題集に取りかかるのはまだ早いとおられるかもしれません。しかし、受験申請時に必要な“超音波検査実績”に記載できる症例を短期間に集めるのは無理です。どのような症例のどのようなデータが必要なのかをまず先に把握して、日常業務の中で無理なく経験できるように、ご自分の研修計画をお立てになるようお勧めいたします。

すぐに受験するわけでもない方で、超音波診断の実践において基本的知識をマスターしておきたいとお考えの方は、クイズを解くような感覚で解いてみてください。教科書をはじめから読んでいくよりも、楽しく勉強ができるのではないのでしょうか。

超音波検査士は、臨床検査技師、診療放射線技師、看護師の方に受験資格があります。

“超音波”とはいったいどんな性質のものかという基礎知識があれば、装置の性能を最大限に発揮させることが可能です。さらに、病態についての医学知識が加わって、診断に直結する情報を提供できるようになります。

超音波検査は、人にも地球にもやさしい検査法ですが、検査を行う人の技量と熱意によって得られる情報量に大きな差ができます。自分の能力を磨くことで、患者さんに苦痛を与えることなく、より多くの診療情報を引き出すことができれば、仕事に大きな生きがいを感じることができるでしょう。

このような“医療のスペシャリスト”を目指すあなたに、この一冊はきっとお役に立つことと思います。

(大阪府立成人病センター

検診部長/超音波検査室長 田中幸子)

<B5判/354頁/定価5,040円(本体4,800円+税5%)/医歯薬出版/2009>